

一学校だより 2023年 7月5日 第14号
(令和5年) (JULY:文月)

みはらっ子

☆ことばで伝えよう…だれかに何かしてもらったら、「ありがとう」を言う。
三原小学校(46-2628) 文責 嵐

5・6年生(計17名)は、6月22日(木)から24日(土)までの2泊3日で、広島方面へ修学旅行に行ってきました



世界遺産：厳島神社の能の舞台と鳥居



みやじマリンのアシカショー



宮島の九州屋でお買い物タイム



世界遺産：間近で見る原爆ドーム



原爆の子の像：三原小の折り鶴も像の下にあるブースに飾りました



語り部さんの話：一生懸命聴きました



平和記念公園



プロ野球観戦：3万人越えの大観衆、電光掲示板には旅行団も映りました



みろくの里：活動班では、みんなが仲良く、思いきり遊びました

農家の人の知恵に学び、感謝の心をもちましょう

作物を栽培する農家の方々は、昔から暦や天気の状態を観察して、田や畑の段取りをするといった知恵をもっています。

初夏のころになると「夏も近づく八十八夜、野にも山にも若葉が茂り……」と歌われているように、春分の日から88日目が新茶の摘み取りに適しているとして茶摘みに精を出します。この時期は天候も安定していて、太陽の光や初夏の風が茶の葉をいっそう引き立て、おいしいお茶をいただけるという知恵なのでしょう。

この季節を過ぎると半夏生(はんげしょう)という時期を迎えます。半夏生は、夏至から11日目にあたる日をいいます。この時期は、最も田植えに適した時期だともいわれます。農家の人にとっては大事な節目の日で、この日までに農作業を終え、この日から5日間は作業をお休みにするという地方もあるそうです。ちなみに、今年の半夏生は、7月2日(日)でした。さて、7月に入ると長く続いた梅雨も明け、「五風十雨(ごふうじゅうう)」という時期を迎えます。農家の人にとっては、野菜や穀物の種まきという大事な節目なのです。「五風十雨」とは、「五日に一度風が吹き、十日に一度雨が降る」という意味で、農作物がよく育つ自然の姿を表しています。いずれも栽培を成功させる農家の方々の知恵です。

わたしたちは、おいしい給食をいただくときも、自分たちには直接会うことのできない農家の方々にも、心から感謝の気持ちを忘れないようにしたいものです。

第39回 幡多地区平和七夕祭……平和を願って折り鶴の七夕飾り

三原小では、今年も「平和の尊さ」について学び、平和への願いを込めて、みんなで折り鶴をつくりました。そして、完成した折り鶴は、四万十市、黒潮町、三原村の各保育所・学校・団体などでも作成した折り鶴と共に四万十市の中心部にある中村天神橋アーケード商店街に飾られています。展示期間は6月30日(金)から7月25日(火)までとなっていますので、ご家族でぜひご覧になってください。



7月7日は、「七夕」として、二十四節気の小暑(しょうしょ)です…小暑とは、梅雨明けが近づき、夏らしい暑さがはじまることとされます。梅雨の最後で、大雨が降ることも多い時期です。そして、気温もぐっと高くなり本格的な夏が始まります。熱中症予防のために、こまめな水分補給や十分な休憩をとるようにしましょう。



1・2年教室前と給食室の七夕飾りです。みんなの願いごとが叶いますように…